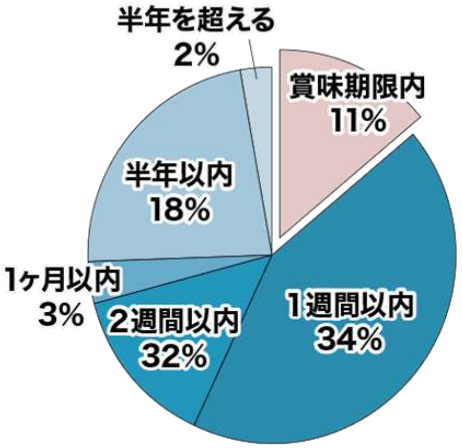
NPO法人コンシューマーズ京都　食品ロス削減チーム

食品ロスについて考えよう

食品ロスの状況を、消費者庁・農水省・京都市の公表データ　を編集・再構成しました。　2026年10月30日作成



89世帯3日分の手つかず食品



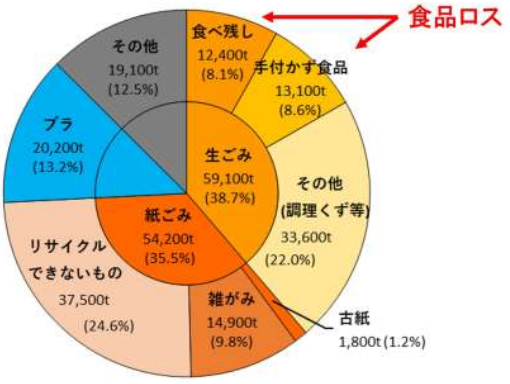
手つかず食品の賞味・賞味期限切れ状況

※1 令和３年度　京都市　生ごみ組成調査

日本の食料事情　（R8年８月７日　農水省発表）

食料自給率カロリーベースで37%

多くの食料を輸入に頼りながら
たくさんムダにしています！



※円グラフ中の各項目の重量は、組成割合とごみ量（約15万トン）から算出した推計値

※2　京都市R6年度業者収集ごみの物理組成調査結果

※3 R6年度 食品ロス量

年間461万トン

家庭系　224万トン

一人あたり　37 kg

事業系　237万トン

食品製造業 110万トン
食品卸売業　9万トン
食品小売業　48万トン
外食　70万トン

※3 R6年度 食品ロスによる温室効果ガス排出量推計

年間978万 t -CO_2

一人あたり　79kg-CO_2

廃棄されてしまう食品のために生産・流通する過程で余分に生じてしまっている排出量を示す。家庭系食品ロスが廃棄・処分される際に直接排出される排出量はふくまれない。

（国立環境研究所：1年間　杉1本は8.8キロ吸収量）

※3 R6年度 食品ロスによる経済損失額

事業部門・家庭部門にまたがる廃棄されてしまう食品入手のために家庭等が負担してしまっている金額

年間　3.8 兆円

一人あたり　31、097円

一家庭あたり　6.3万円にもなる

出典
※1　HP 京都市食品ロスゼロプロジェクト　京都市生ごみデータ　より　令和3年度京都市家庭ごみ細組成調査
※2　HP 京都市　京都市情報館　ページ番号 248976　業者収集ごみ細組成調査
※3　R８年度　食品ロス量に対する経済損失及び温室効果ガス排出量に関する調査業務　調査報告書消費者庁消費者教育推進課食品ロス削減推進室